



なきごえ



1990

6

大阪市
天王寺動物園協会

荒木啓子



こんにちは、私は絵を描くことを仕事にしているいわゆるイラストレーターです。動物が大好き！なわけでもないのですが動物の絵を主に描いてきました。そういう理由で今回

ここで書かせていただくことになりました。でも絵を描く人って文章ベタが多いような気がします。ものごとを文字で説明するより絵に描いた方が、ずっと早くて解ってもらい易いと私は思うからです。私は今、原稿用紙を前に四苦八苦しているところです。つまりぬ弁解はさておいて、物心ついた頃、家には犬と猫が1匹ずついました。犬はその頃、ペットとして流行っていたスピッツで、白いバラの咲き誇る小さな庭で（幼い時の記憶は美化されるものですが…）、ご飯を食べていました。あまりおいしそうに食べるので私もどうしても欲しくなって母に同じ物を作ってもらいました。子供の味覚はメチャメチャですが、あれはおいしかったように思います。猫の方はトラ猫で私はこの猫が大嫌いでした。私がいじめたのか、猫が私をチビとみくびっていたのか今思えば猫は前者の仕返しをしただけだったのでしょうか、猫との思い出といえば、ひっかき傷ともう一つ、何が原因でそういう状況になったのかは覚えていませんが、部屋の中を只ひたすらぐるぐる追い掛け回されているシーンです、泣こうがわめこうがっこうにやめてくれません。猫にしてみれば「こいつ、ちょっと懲らしめてやれ」ぐらいだったでしょ

うが私には死にももの狂いの恐怖でした。

もう少し大きくなって外の世界に興味を持ち始めた頃、同じ市内ですが引っ越しをしました。大阪の端のけっこう田舎な所で、家の周りはまだまだ畑と田んぼばかりでした。数軒離れた所に大きな農家がありそこに巨大な黒い牛がいました。小さな私には見上げるばかりの巨体で傍へ寄ることさえ恐ろしくてできませんでした。ある夕方友達とその牛の引っぱる車に乗せてもらいました。手をグッと握りしめて始めてジェットコースターに乗った時のような恐ろしい気持ちに似ていたかな。隣の家には夜中でもかまわず時を告げる雄鶏がいました。いつの間にかいなくなりましたが、あの頃エノコロ草のカエル釣りやメダカやザリガニを釣るのが遊びの1つでした。又、庭の隅のサンショの木ではアゲハチョウの産卵から孵化までを観察できたり、アマガエルがけっして水の中で生活しているのを見て発見したのはこの頃でした。バケツの水の中に入れてのですが体からジワーと油が浮き出してきて、しばらく見てみましたがどうにも居心地が悪そうなので逃がしてやりました。こうして思い出してみると私はずいぶん意地悪なやつだったのですね、でも子供ってこんなものですよ。

私のこれらの思い出はほとんどが春や夏の陽光の中のイメージです。昔はいろいろな生き物といろいろな形で接することが多かったのですね。仕事や日々の生活や環境の変化などで、すっかり忘れてしまいました。子供の頃「私は動物が好き」と公言していたことさえ忘れてました。何の思い入れもない対象をモデルにして絵を描いていても、良い絵も楽しい絵も描けるわけがありません。季節はさわやかな初夏です、みなさんも仕事の手を休めて新しいものを見つけに外へ出てみませんか？

(イラストレーター)

なきごえ6月号もくじ

動物と私 2
 “シマハイエナ” 3
 動物園グラフ・動物園日記 4・5
 新しいオオカミ舎とオオカミの仲間たち 6・7
 アカウミガメの産卵 8・9・10
 公園花ごよみ 10
 動物園ニュース 11

表紙の写真説明

“インドオオコウモリ”

(*Pteropus giganteus*)

いつも逆さでつかれないのかな、横顔はキツネのようです。そこで英名はフライングホックス。果実が主食でフルーツバットとも呼ばれています。完全な夜行性ではありませんが、夜行性館で展示しています。2月には赤ちゃんが生まれました。(撮影：大野尊信)



“シマハイエナ”

(*Hyaena hyaena*)

新しく仲間入りしたシマハイエナ。12年振りのお目見えです。利口な動物で単独行動を好みます。

(撮影：中川哲男)

動物園グラフ

“新オオカミ舎完成！”

7ヶ月の工期ののち新しいオオカミ舎が完成しました。3種類の新しいオオカミの仲間も加わり、ガラス越しに見えるオオカミは迫力十分です。
(撮影：中川 哲男)



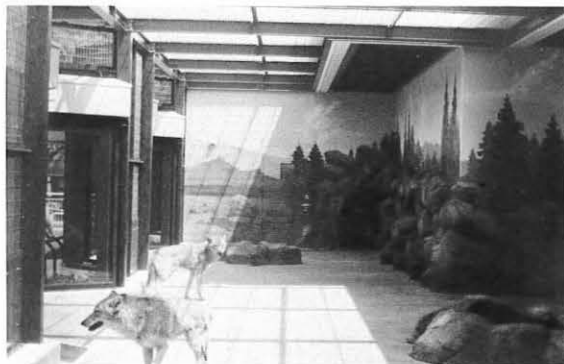
ガラスと金網の複合展示 総工費に1億5225万円を要しました。



右展示室、左予備室 広くて明るい室内は快適です。



チュウゴクオオカミの展示室は中国の草原から森林地帯を描きました。



擬岩と壁画、ガラス窓と金網、凹凸と、変化のある広い展示室。

3・4月の動物園日記

- 3/27. マンドリルの雄が死亡しました。
- 3/28. タヌキを1頭保護しましたが、手当てのいかなく翌日死亡しました。
- 3/30. カモシカ園で飼育中のクジャクが天王寺公園へ脱出しましたが、無事捕獲しカモシカ園に戻しました。
- 4/2. コサギがふ化しました。
- 4/6. マンドリル(雄)が生まれました。この子の父親は、3/27に死亡したマンドリルです。
- 4/8. 12/15生まれのマントビヒの赤ちゃんとその母親の展示を始めました。クロサイに交尾行動が見られました。

- 4/9. 2/6にふ化したハワイガン4羽に足環をつけました。
- 4/10. ダチョウが交尾しました。
- 4/11. 4/6に生まれたマンドリルの赤ちゃんを一般公開しました。
- 4/12. トカラヤギ(雄)が生まれました。
- 4/13. ミクロネシアのツバル国の副首相が来園されました。
- 4/14. コサンケイが2羽ふ化しました。
- 4/15. 第60回動物のお話とスライドの会で「フクロウのお話」を開催しました。ダチョウが卵を産みました。
- 4/17. タヌキ、フクロウ、キジバトなどの元気になった保護動物を自然に帰しました。



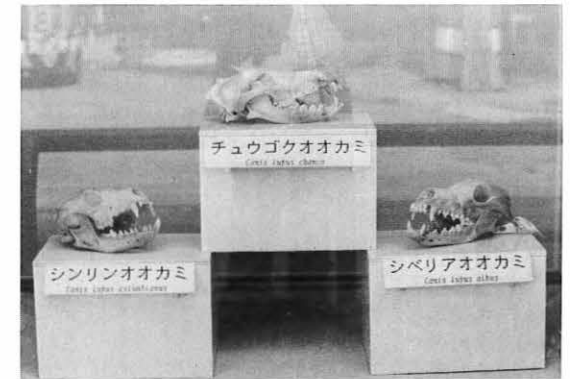
自然通風と強制換気 照明はもちろん、遠赤外線ヒーターも取付可能。



セカンドキャッチ、2重施錠、落としピンにカーブミラー、安全対策には気をつけています。給水栓は壁面埋込。



わかりやすい説明板 2ヶ所に取付けています。



2ヶ所の展示コーナーには、オオカミ各亜種の頭骨などを展示。

- 4/18. 花博で来日中のシンガポールのジュロンボードパークの飼育係1名が来園されました。今季最初のブラックバック(雄)が生まれました。
- 4/19. 今季最初のニホンザルが生まれました。
- 4/22. 春の動物園まつりが始まりしました。フクロウを1羽保護しました。アカハシハジロが2羽ふ化しました。
- 4/23. ブラックバック(雌)が生まれました。
- 4/24. ブラックバック(雄)が生まれました。
- 4/25. メルボルン動物園の飼育係・獣医師の方2名がコアラ第2陣(雄1頭、雌2頭)と共に来園されました。コアラは現在検疫中です。これで当園のコアラは雄2頭、雌4頭

- の計6頭になりました。コルリを1羽保護しました。
- 4/26. 新しいオオカミ舎を一般公開しました。4/25保護したコルリを自然に帰しました。
- 4/27. ツバメとゴイサギを保護しました。今季最初のシュバシコウがふ化しました。カナダガンが6羽ふ化しました。
- 4/28. 3/24ふ化し、人工保育しているワライカワセミのヒナを一般公開しました。ブラックバック(雄)が生まれました。ウミネコがふ化しました。

新しいオオカミ舎とオオカミの仲間たち

なきごえ26(6),1990

§ 新しいオオカミ舎

新しいオオカミ舎は、過去のヤマネコ舎、ヒョウ舎建設の手法を参考に、動物にとっても飼育キーパーにとっても快適で、過ごしよい環境をめざして、7ヶ月の工期の末、この3月末に完成しました。

この動物舎の特徴は広い



完成した新オオカミ舎

予備室と多くの寝室を設けたことです。予備室の使用目的は、たくさん生れて一度に展示できないもの、体調が悪く展示を交替せざるを得ないもの、老令や障害で余世をゆくり過ぎてやりたいもの等を対象に、日当たりの良い東向きに面した部分に放飼場2室、寝室4室を設けました。入園者の皆様に見ていただく展示室は従前の8室から4室に減少しましたが、内装外装に工夫して各々特徴ある肉食獣を4種揃えました。その4種はハイエナ科のシマハイエナ、イヌ科のチュウゴクオオカミ、コヨテ、セグロジャッカルで、特にチュウゴクオオカミは多頭飼育を目的としています。

各々の寝室はチュウゴクオオカミが6室、その他の動物が4室となっており、寝室にはフローアヒーターや換気扇を設けるほか、遠赤外線ヒーターも取り付けられるよう準備をして、冬は暖かく夏は通風換気の良いように努めました。又、各々の放飼場には砂場やプールを設け、壁面にはそれらの動物が棲んでいると思われる生息地の情景を壁画にしました。

キーパー通路では給水栓を壁にひかえるようにして広いスペースを確保するほか、壁面、天井とも(もちろん寝室内も)白いペイントで塗装し、明るい感じを出しています。また、キーパー通路の曲り角にはカーブミラーを設け、脱出動物の早期発見に努めるようにしています。なお、2ヶ所ある展示コーナーにはとりあえず各亜種のオオカミの頭骨とブチハイエナの頭骨を展示していますが、今後の展示に工夫を図りたいと考えています。

今回、この動物舎建設にあたっては従前のサル舎、ヒョウ舎と同様に建設プロジェクトを組織し、よりよい動物舎を造るため意見を交わし、納得のうえで設計図を引いていただきました。しかし、建物が徐々に建つに従って、やはり目に見えない気付かない部分もあり何度も手直しをしていただきました。

完成したオオカミ舎の規模概要は次のとおりです。

- 総工費 1億5225万円
- 総面積 669.0 m² (放飼場 458.5m²含む)
- 展示室 4室、予備室 2室、寝室 22室

§ オオカミの仲間たち

以前のオオカミ舎ではブチハイエナ、チュウゴク

オオカミ、チュウゴクオオカミ黒変種、シンリンオオカミ、シベリアオオカミ、ドール、コヨテ、キンイロジャッカルを飼育してオオカミのコレクションを競っていたものですが、今回のオオカミ舎の建設にあたってはその多くを整理し、特徴のある前述の4種に限りしました。一般の入園者にとっては所詮オオカミはオオカミでしかありませんでしょうから亜種を多く揃えるよりも種と点数をへらし、それよりも特徴のあるものを身近に、つぶさに見ていただくということの方が喜んでいただけたらと思います。展示室の一部をガラス張りにしました。このことにより入園者からは「迫力がある!!」、「TVで見るとより思ったより大きい!!」とか「前の檻より広くて明るく動物達も幸せだね!!」等々、賞讃の言葉をいただいております。

(1) シマハイエナ

ハイエナはイヌよりもジャコウネコの仲間近くに3属4種いますが、一般にはイヌの仲間とよく勘違いされます。

今回のシマハイエナの導入については、前のブチハイエナが老令でなくなったこと(飼育年数24年3ヶ月で日本で最も長寿であった)、ブチハイエナは数少なく入手困難であることと、やはりネコ科とイ



シマハイエナ

ヌ科の比較展示になくてはならぬものという考えから、今回の若い個体の導入となりました。シマハイエナの導入は12年振りのことで、75年の当園の歴史の中で5回目のことです。最も古いものでは開園時(大正4年)の動物リストにその名前を見えています。

さて、今回のシマハイエナは若く、被毛も艶やかで、タテガミも長く美しい個体ですが、仲々好奇心も強く、早速、寝室のゴムの緩衝材や放飼場の戸当り、アクリルボード等を食い破って、いたづらぶりを発揮しています。このシマハイエナを真近に見ていますと何かひょうきんな顔付きにも見えるのですが、反面やはり不気味なところも持ちあわせており、仲々油断は禁物というところですね。

シマハイエナはブチハイエナよりもカッシュクハイエナに近似の仲間、食性も哺乳類のほか、爬虫類、鳥類、果実等を食べるなどブチハイエナとは少々異なります。サバンナでの力関係もブチハイエナが大型の哺乳類を捕食する、走るのが速いことなど、力が勝っていることから一步譲るところがあります。ブチハイエナは体格の大きい雌を中心に数頭の雄、雌、子供を混えた女家長制のクランという縄張りの強い群を形成します。しかしながらシマハイエナは群

なきごえ26(6),1990

行動はせず、単独行動をする唯一のハイエナです。
(2) チュウゴクオオカミ

当園でチュウゴクオオカミを飼育しはじめたのは1974年

(昭49)

からで、これは上海動物園から寄贈されたクロオオカミでした。



チュウゴクオオカミ

このペアは残念ながら繁殖に成功しませんでした。再度、上海動物園からクロオオカミをいただいたのは1981年(昭56)で、1983年(昭58)2月に8頭の仔を出産しています。

今回導入したものはスイス生れでオランダから輸入したもので、上海動物園からいただいたクロオオカミと違って普通の茶褐色の毛色をしています。

中国経済動物誌によれば中国でのオオカミの分布はほぼ全土にわたっており、特に華北、内蒙古など北部に多いようです。毛皮生産としては年間10,000頭ものオオカミが捕獲されているようで、毛皮の質も北部のものがよいとしています。

さて、オオカミはアジア、中東、ヨーロッパの一部、北アメリカに生息しており、その生息域によって体格の大小、毛色の違い、毛足の長さ等に相違があり、これを亜種として、シベリアオオカミ(以下オオカミ省略)、シンリン、ネブラスカ、コロンビア、チョウセン、チュウゴク、チベット、モウコ、ヨーロッパ、エゾ(絶滅)、ニホン(絶滅)等々、10数種に分けています。

ところで2回目に上海動物園からいただいたクロオオカミが1984年(昭58)2月に8頭の仔を生んでいますが(8頭とも親に似て真っ黒)、到底8頭が無事成育するのは困難と判断し、翌日4頭だけを人工哺育することにして親から取上げました。すると数週間もしないうちにその黒っぽい毛色が段々と茶褐色の毛色に変わってしまい、この変化を決定付ける因子は母乳(初乳?)に含まれるのではないかと考えたりもしました。

オオカミは基本的には一夫一婦制をとりますが、通常この繁殖ペアをアルファオス、アルファメスと称し、これを中心に1才令の仔、赤ちゃん、それにまれに成熟オス、成熟メス(いない場合もある)が加わり群を作ります。この群をイヌ科社会ではパックと呼びますが、このパックは1才令の仔の離脱、アルファペアの1年後の出産等により構成数の増減があります。しかし概ね6~10数頭までのもので、このパックの構成数は出産、死亡に左右されますが、狩猟従事、餌物の消費、社会的つながり、パック内での競争等の条件によって決定づけられます。通常、春から夏にかけては子持ちが多く、子育ての関係があり1頭もしくは夫婦で餌物をとりますが、冬季、餌物が

少なくなると成長した仔やパック内の成獣も加わって数頭の群で狩りをします。

この他、親の子に対する給餌法に愛情豊かなものがあります。これは巣穴で待つ子やメス親がオス親が狩りで止めた餌物を一担飲み込み、巣穴に帰ってから吐戻して与える方法です。これはジャッカルやコヨテにみられますがハイエナやキツネにはみられません。又、パック内での1才若オス、若メスはヘルパーとして仔の面倒をよくみます。

(3) コヨテ

コヨテは北アメリカに広く生息している小型のオオカミで、北アメリカで



コヨテ

はシンリンオオカミが人の手によって駆逐されるに従い、オオカミとコヨテの均衡が崩れ、唯一北アメリカにおいて増加しているイヌ科の動物です。

コヨテは単独生活者だと言われてきましたが、一部群を作ってオオカミと同様の生活形態をもつものもいます。吐戻し給餌も、ヘルパーの役割もオオカミと同様です。

コヨテの語源は中米アステカ文明を造ったインディオが名付けたものです。又、学名の *Canis latrans* はやかましく鳴く犬という意味があります。

(4) セグロジャッカル



セグロジャッカル

セグロジャッカルはスーダンから南アフリカにかけて生息する体重10kgほどの中型のイヌ科動物です。セグロジャッカルは一夫一婦制で仲が良く、ペアのきずなは非常に強く、繁殖期には巣穴で仔を育てオス親は仔とメス親に吐戻し給餌を行います。繁殖期にはオス親が単独で餌物を狩りますが、繁殖期以外にはペアで協力して餌物を狩ります。その成功率は単独で狩る時よりも3倍の成功率を示します。また、昨年生れの仔はヘルパーとして新生仔の子育てに協力し、その生活形態はオオカミ、コヨテに類似し、パックを形成します。

(飼育課長代理:中川 哲 男)

アカウミガメの産卵

なぎごえ26(6),1990

はじめに

「南部の梅か 梅の南部か」南部町の周辺は梅の産地として全国的にその名を知られています。その梅のかげにかくれてあまり知られていないものがあります。それは、毎年千里が浜に150頭ちかく産卵のため訪れるアカウミガメです。



近年、夏になると、ウミガメをめぐって千里が浜を訪れる客が多くなりました。

南部町千里が浜は、幅平均40m前後、延長1.5kmの砂浜です。ふだんは、うちよせる波の音と時々通過する電車の音ぐらいで、特に冬場は訪れる人影も見られない至って閑静な砂浜です。また、海岸の背後には照葉樹林も多く残されていて景観もすぐれた海浜です。

この砂浜はむかしからアカウミガメの産卵地として知られ、和歌山県では最大といってよいでしょう。そのため、昭和39年に県の天然記念物に指定されました。

むかしは、ずいぶん多くのウミガメが上陸産卵したと伝えられていますが、このアカウミガメの生態調査に本格的にとりくみ始めたのは1981年でした。はじめは、興味をもった1人の中学校教師だけでしたが、ふとしたきっかけで私も加わり今では2人で共同観察をつづけています。

1989年度の調査を中心に過去9年間の観察をおりませながら、千里が浜のアカウミガメの生態を述べてみたいと思います。

1 産卵行動

ウミガメは、静かな海ときれいな砂浜を求めて、産卵のために同じ浜に帰ってくるといわれています。その回遊調査ははじめたばかりでよくわかりません。

しかし、はっきりしていることは5月中旬ともなれば、必ず千里が浜に姿を見せるという事実です。

千里が浜に上陸するウミガメの産卵行動を観察してみると、種の保存のため長い歴史の中で培われたものでしょうか？いずれのカメも必ず一定の産卵行動を行うことには驚きを感じます。

その行動を次の5つに大きく分けることにします。

- 1 上陸から巣穴ほり開始まで
- 2 巣穴ほり
- 3 産卵
- 4 埋めもどし
- 5 海に帰る

(1) 上陸から巣穴ほり開始まで……約20分～30分

波うちぎわに現われて上陸場所を確かめますが、警戒心が強く、特に「光音・におい」などに敏感です。光を当てるとただちに波間に消えていきますから充分注意してやるのが大事です。

あたりに異常がないことを確かめると、ゆっくり砂浜をはい上がって産卵場所を選びます。産卵場所を選ぶと、前後の足を使って表面のかわいた砂をはらいのけます。そして体を左右にふり

ながら後足でからだを安定するためのくぼみをつくります。

(2) 巣穴ほり……約20分

穴は、後足の内側をショベルのように曲げ、交互にほっていきます。右・左・右・左と砂の中に足を入れて砂をすくい、はね上げていきます。はじめは右一左の時間の間隔が短く、穴が深くなるにつれて長くなります。約20分もすると直径20cm深さ40cm～50cmの穴ができあがります。この穴の深さは足をいっぱいおぼした長さで測っているようです。砂の状態によりほってもほっても砂がくずれ落ちる場合や砂の堆積が浅い場合などは、穴ほりをやめて移動し、1の行動からやりなおします。

時には海へいったんもどっていくカメもあります。

(3) 産卵……約20分



穴ほりが終わるとすぐ後足を左右に開いてふんばります。

さあ産卵開始です。

数秒間に1つずつ、ときには2つ3つと連続して卵が産み落とされていきます。20分もすると穴は100個以上の卵で満たされ、それが真珠のように輝いてとてもきれいです。

(4) 埋めもどし……約20分～25分

産卵を終えるとすばやく左右の後足を砂をかき集めて埋めもどしをします。埋めもどしが終わると後足両方でしっかりつき固め、後足で砂面をならします。それからからだを前へ少しずらずらしながら前足も使って後方へ砂をはねとばしていきます。これで産卵跡がかくされてしまいます。

(5) 海に帰る……約10分



産卵場所のカムフラージュが終わると、ただちに海に帰っていきます。帰る速さは上陸のそれよりずいぶん速いです。

無事に産卵の大任を果たした親ガメが、海に没していく瞬間はなんともいえない感動的なシーンです。

なぎごえ26(6),1990

以上、産卵行動は約90分～120分ですが、なかには産卵に適した場所を求めてさまよい、3時間以上を費やす個体もめずらしくありません。



2 ふ化のようす

8月中旬・砂表面の温度が下がる夜間に、表面の砂をかき分けながらぬけだすようにはい出てくる子ガメたちが見られます。しかし、甲長45mm程度の子ガメは、よく注意しないと発見できません。

地上に出た子ガメたちは、光に非常に敏感で懐中電灯の光をあてると一斉に集まってきます。それで山手に人工の照明灯などがあれば明け方まで海にたどりつけないでしょう。暗闇に地上に出た子ガメたちがまようことなく海に向かって行進するのは、海面の方が確実に明るいためです。

同一の巣穴からほとんど脱出を終えるのは約10日間を要するようです。

次に、海に向かった子ガメたちのその後の生活や、サケのように生まれた砂浜に帰ってくるのかどうかについてはわかっていません。

3 千里が浜の上陸産卵状況

(ア) 上陸産卵頭数

観察をはじめてから9年間の上陸産卵頭数は表の通りです。非産卵上陸は計数に入れていません。そのため上陸頭数はこれより多くなると思います。

それから、月別では7月が最も多く、次いで6月という順になっています。

(イ) 上陸期間

平均5月中旬～8月下旬の約100日間です。しかし、8月15日をすぎるとほとんど姿を見せなくなります。

(ウ) ふ化成績

年	頭数
1981	115
1982	171
1983	98
1984	145
1985	190
1986	122+(40)
1987	145(推定)
1988	150±10
1989	201

月	頭数
5月	22
6月	63
7月	90
8月	24
9月	2

月別上陸数

年	上陸開始	上陸終了
1981	5/20	8/16
1982	5/17	9/1
1983	5/16	8/17
1984	5/22	8/17
1985	5/18	8/19
1986	5/15	9/7
1987	5/14	8/20
1988	4/30	8/25
1989	5/17	9/7

産卵期間から考えて、7月下旬～10月下旬ということになりますが、実際見

ることができるのは8月10日以後9月中旬までです。10月に入ると夜間の気温が下がり、穴の表層部で、動きが鈍くなって留どまっている子ガメや、死んでいる子ガメがあります。

このことから、8月に産卵したものは生き残れる確率が非常に低いことが予想されます。

(エ) 個体の大きさ・産卵数

70cm以上～75cm未満	0	甲長	甲幅	産卵数
75cm以上～80cm未満	10	78.2	×63	103
80cm以上～85cm未満	13	87.	×70	119
85cm以上～90cm未満	28	79.	×64	112
90cm以上～95cm未満	5	88.	×67	146
95cm以上～	1	97.5	×78	143

上陸カメの大きさ (測定したもの)

82.5	×65.5	121
77.	×58.5	123
78.	×62.5	70
87.5	×66	132
88.	×67.5	110
84.5	×66	104
76.	×62	110
89.	×68	91
85.	×66	110
86.	×66	75

カメの大きさと産卵数

それらのうち産卵数を計数できたものだけをあげてみると、個体の大きさと産卵数との相関関係はみとめられませんでした。

(オ) 回遊

千里が浜に上陸するウミガメは、どの海域を回遊しているのか、どこに生息しているのか、1シーズンの産卵回数は？また、回帰性についてはどうか、などの疑問について調査するため、標識装着による放流をはじめました。

33頭に装着して放流しましたが、残念ながら他地域からの発見・再捕の通報はありません。しかし、そのうち9頭が、約2週間の間隔をおいて2回または3回再上陸し産卵をしました。そのことを、確認できたのは大きな収穫だったと思います。

(カ) ふ化成績

産卵日	産卵数	移動日	ふ化脱出日	ふ化率
6/12	127	6/13	8/10	80.2%
6/21	118	6/21	?	調査できず
7/7	143	7/8	8/24	69.2%
7/8	146	7/8	8/24	81.1%
7/28	110	7/28	?	79.0%

40cm～50cmの深さの穴に産み落とされた卵は、太陽の熱によって発生、成長し、60日前後でふ化します。このとき重要なのは適当な温度(30℃前後)と湿度・新鮮な空気です。

その条件をこの砂浜は十分満たしているため、ふ化成績は良いほうだと考えています。

自然ふ化で抽出調査をしたところ、60%~70%のふ化率でした。保護のため移動した場合(4例)は、表の通りで、条件の良い場所へ埋卵するとふ化率70%以上は確保できそうです。

(キ) その他

千里が浜を含めて、近接の南部町内の砂浜を総合すると約250頭の上陸産卵が見込まれます。そうになると全国的にも有数の産卵地といえるでしょう。ところが、年間2頭3頭の死因不明のウミガメの屍体がうちよせることもあり、上陸ガメにも、モリがささったもの、釣り針のかかったもの、背甲や足に障害のあるもの、などの個体が、近年多くなったようにも感じます。

4 保護

千里が浜に毎年数多くのアカウミガメが、産卵のため上陸する理由として次のことが考えられます。

- 1 砂質(粒)が産卵に適した砂浜であること
- 2 海岸に人工的な障害がなく、静かな自然が保たれていること
- 3 海岸の沖合が岩礁地帯で、エサや休む場所が豊富であること

※ 公園花ごよみ

今回は天王寺公園内にある植物温室の中のあざやかに咲きほこる2つの花を紹介します。

* 球根ベゴニア

5種約320点が展示されています。ベゴニアは南米原産のベゴニアの複雑な交配によって作られた園芸雑種の総称です。

品種は大輪種、小輪多花性種、懸垂種があり花色は赤、白、桃、黄の4系統で中間色も多いが青系はさだありません。



- 4 砂浜の幅がある程度あり、砂の堆積も深いこと
- 5 日光が強く、砂の温度を高められること
- 6 人家や国道など通りの多いところから隔離された地域であること

この海浜にカメが訪れてくるということは、自然が残されているという証拠です。

しかし、海水の汚染、訪れる客の捨てるおびたしいごみ屑と空き缶。海も海浜もだんだん汚れが進んでいるようです。また、海岸の照葉樹林も現状のまま残されていく保証はありません。

また、となりの田辺湾にリゾート計画もすすんでいると聞きます。そのため、絶滅に瀕しているというウミガメにとっては、ますます生きつづけていくことが厳しい環境になりつつあります。このままではいつの日か訪れるカメの姿を見かけなくなったということになりかねません。

せめて、静かな千里が浜をいつまでも残しておいてやりたいものです。そのことが、ウミガメを含めて人間を守ることにつながることだと思っております。

(南部町:後藤 清)

* 洋ラン

10種約100点が展示されています。ランは単子葉植物のなかでも最も進化した植物とされ、今なお種分化を続けています。ひとつの科としては驚くほど数が多く約750属2万種以上含むといわれています。



この温室は一定温度(約23℃)に保たれており2つの花以外にも四季おりおりの花を咲かせており来園される人々の目をたのしませてくれます。

第16回サマースクールの参加者を募集します

夏休みの期間中、動物園で動物の観察や飼育係の仕事を見学し、また映像館でアイマックスを観たり、温室を見学したりして、動物や植物について勉強します。対象は小学4・5・6年生のみです。次のつぎのよい組をひとつ選んで申し込んでください。

- 1 日時 第1組 7月24日(水)・7月25日(木)
第2組 7月26日(金)・7月27日(土)
第3組 7月28日(日)・7月29日(月)
- 2 参加資格 小学校4・5・6年生(ただし、保護者の同意があって2日間つづけて動物園まで通える者。)
- 3 参加費 1名1,500円(テキスト、記念写真、修了証などの費用。)

- 4 申込方法 6月30日までに、往復はがきで往信はがきに①サマースクール第組に参加希望、②住所・電話番号、③氏名・年齢・性別、④学校名・学年、⑤保護者氏名を記入し、返信用はがきのおもてに自分の住所・氏名を記入して申し込んでください。はがきは1通のみ申し込み可能。
大阪市天王寺区茶臼山町6-74
大阪市天王寺動物園サマースクール係
保護者の参加はできません。子供の送迎だけにしてください。参加できなかった場合は必ず連絡してください。
- 5 申し込み先
- 6 その他

動物園ニュース

§ コアラ第2陣到着

大阪市は、市制100周年に当たる平成元年に、姉妹都市であるオーストラリア・メルボルン市よりコアラ6頭を誘致する計画をたてました。昨年6月1日にまず3頭(オス1、メス2)が来園し、今年は4月25日に残り3頭(オス1、メス2)が来園し、これでコアラ誘致計画が完了し、コアラ館には、オス2頭、メス4頭の総勢6頭のコアラが飼育されています。

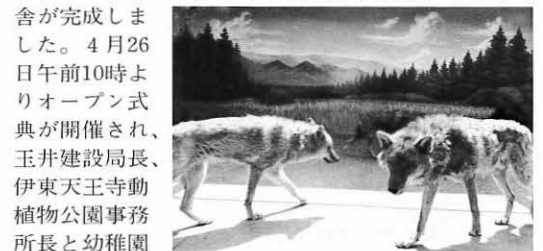


今回来園したコアラは、オスのみが野生で捕獲された個体で、ほか2頭のメスはともにメルボルン動物園生まれです。年齢は3頭とも2歳です。

うまくいけば今年中に、赤ちゃん誕生の吉報をご報告できるかも知れません。

§ 新オオカミ舎オープン

旧オオカミ舎の建て替え工事が昨年8月から進められていましたが、本年3月31日、新しいオオカミ舎が完成しました。4月26日午前10時よりオープン式典が開催され、玉井建設局長、伊東天王寺動物園事務所長と幼稚園児によるテ



チュウゴクオオカミ展示室

ブカットのあと、幼稚園児たちの「オオカミさん」という呼び声によってチュウゴクオオカミ3頭が、まず展示場に現れました。

新オオカミ舎には、このチュウゴクオオカミを含めコヨテ、セグロジャッカルなどイヌ科動物3種と、ハイエナ科のシマハイエナ1種が展示されています。

総工費1億5225万円、総面積669㎡、オオカミ展示室では、群れ飼育をめざすため165㎡と4種の動物中最も広い放飼場面積をとり、他は65㎡前後の広さがあります。各展示場ともに、砂浴びや水浴びができるように砂場とプールが設置され、背景には、各々の動物の生息地が描かれています。親が落ち着いて出産子育てができよう、同舎裏側に繁殖室も2室設けられています。

§ ベビーラッシュ続く

4月に入ってから、相次いで動物の赤ちゃんが誕生しています。パードケージでは、コサギ、シユバ

現在の飼育動物数

(平成2年4月30日現在)

哺乳類	13目	104種	474点
鳥類	20目	187種	727点
爬虫類	3目	33種	81点
合計	36目	324種	1282点



カナダガンの親子 (生後3日)

マンドリル母子 (生後22日)

シコウが各々、2日、27日にふ化し、カモではアカハシハジロが22日、28日と2回にわたり、またカナダガンが27日にふ化しました。一方キジ舎では、ハイロコクジャクが6日1羽ふ化したのを皮切りに、コサンケイが13日、14日と両日にわたり、セイランも27日に1羽ふ化しました。両鳥舎とも、産卵がどんどん続いています。

哺乳類では、マンドリルのオスが6日1頭生まれ、トカラヤギが12日に、ブラックバックが18日、19日23日と計3頭生まれ、ニホンザルも19日に、本年最初の子供が生まれました。

§ メルボルン動物園スタッフによる講演会開催



今回のコアラ輸送で来阪された、ヘレン・マクラケン獣医師とレズ・ピーチ飼育主任が4月29日コアラについて、現地

コアラのスライドを混え、わかりやすく説明して下さいました。主催は大阪メルボルン姉妹都市協会でした。

◎ お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
- 6月17日(日) オオカミのお話
- 7月15日(日) アシカのお話
- 8月19日(日) ゾウのワンポイント
- 時間: 午後1時~2時
- 場所: 北園レクチャールーム

◎ テレホンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレホンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。
電話番号 771-9999

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしか いかた

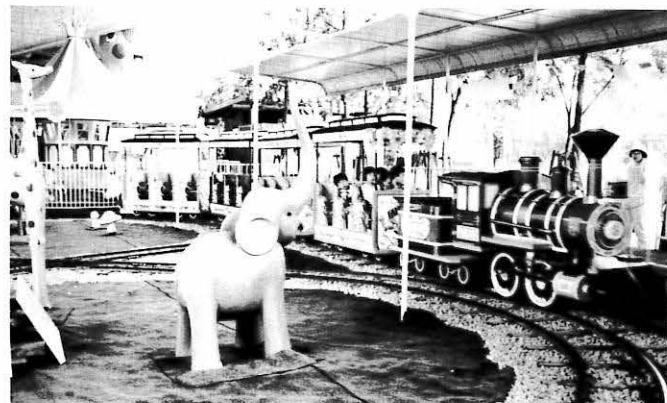
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしか いかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



入園の記念に…

天王寺動物園の本

オールカラー

500円

園内売店にあります。

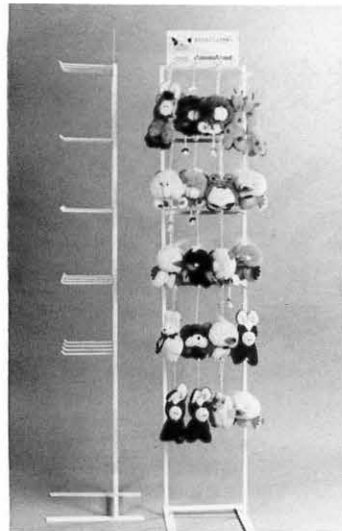
- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対 象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸 出 料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申 込 先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶白山町6-74 ☎(06)771-0201

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800 (50度用)



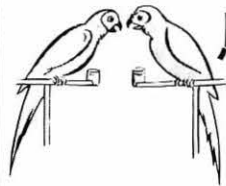


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

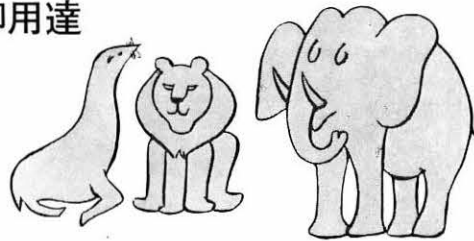
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

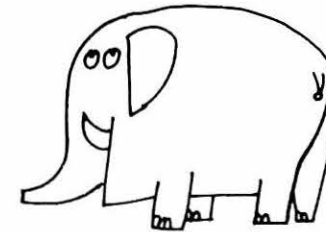
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内

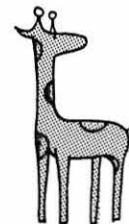


南園売店

大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー
とってもゼリー



野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——
社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1990年6月10日発行(毎月10日発行)第26巻 第6号 (通巻298号)

編集/大阪市天王寺動物園
発行人/大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 大阪 (06) 771-0201
振替口座 大阪 3-37823

編集委員

伊東重朗 / 大西史朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 奥上 昇 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榊原安昭
森本委利 / 竹田正人 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 山下賢二 / 土谷正道